

広島修道院沿革

- 明治 22 年 1 月 北村藤三郎広島市若草町(元字大須賀町)の自宅を開放し児童救済に立ち上がり、広島修道学会を創立
- 24 年 4 月 自宅屋敷内に 396 平米の子供の住居、学舎を建築し広島修道学院に改称、世相混乱の中に 70 名の恵まれない子供を養育している
- 29 年 有栖川宮熾仁親王殿下に拝謁、御下賜金拝受
- 42 年 2 月 内務大臣より選彰され、奨励金、助成金を受ける
- 43 年 大蔵大臣澁沢栄一、宮中顧問官佐藤正、元学習院長北條時敬、貴族院議員花井卓蔵、修道学園創立者海軍兵学校教授山田養吉、東京帝国大学名誉教授呉秀三、大正天皇皇太子時代傅育官石川岩吉、広島市長退役陸軍中將田部正壯、元警視總監貴族院議員丸山鶴吉、東京高等学校教授頼成一、皇室祇候貴族院議員松井茂等他 26 名相寄り協賛会設立された
- 大正 8 年 宮内省より御下賜金を受け、また広島市から終戦まで助成金を受ける
- 昭和 4 年 創立者次男北村孝義米国に留学、社会福祉学を専攻し、多くの知己を得て以後同人死去まで米国の多くの方から事業援助を受けている
- 8 年 8 月 創立者北村藤三郎永眠、北村孝義が事業を継承する
- 9 月 本館、講堂、児童棟、職員宿舎、倉庫等を増改築
- 10 年 4 月 賀屋興宣、安倍源基(共に元内務大臣)顧問に就任
- 11 年 5 月 東久邇宮殿下御台臨、御下賜金を拝受
- 20 年 5 月 空襲続き、児童 57 名、広島県安佐郡日浦村に集団疎開
- 20 年 8 月 原子爆弾により全施設焼失、院長の家族犠牲となる
- 22 年 4 月 焼跡瓦礫の中に古釘、焼け残り板を集め、児童寮(277 平米)を復興
- 23 年 4 月 児童福祉法に基づき養護施設広島修道院(定員 100 名)として認可される、本館等建設
- 24 年 4 月 北村孝義は米国における乳児の完全養育体制が社会に還元する機能を見聞したことをもとに乳児院を設立した 当時尚占領下にあり、GHQ 呉市駐在デッソー女史が当院を視察し、乳児院を独立した施設(定員 25 名)とし、応待した河野澄子を初代院長に指名した
- 27 年 4 月 社会福祉法人として組織変更、理事長に北村孝義就任
都市計画街路事業により移転
- 30 年 4 月 幼児寮建設
- 36 年 4 月 乳児院改築
- 40 年 3 月 幼児寮改築
- 43 年 4 月 建物老朽化により養護施設、乳児院両施設共に鉄筋コンクリートに増改築
広島市立乳児院廃止され吸収して乳児院定員 50 名となる
- 43 年 7 月 皇太子妃殿下(現皇后陛下)御台臨
- 44 年 4 月 後援団体「広島修道院友の会」発足
- 49 年 7 月 常陸宮妃殿下御台臨

- 52年 3月 養護施設児童寮、保育室、職員宿舎の5階建(1039㎡)を増築
- 53年 10月 秦野楠雄(元広島弁護士会長)理事長に就任
- 54年 9月 地域交流の一端として保育相談室開設
- 55年 9月 広瀬ハマコ(元広島女学院大学学長)理事長に就任
- 61年 6月 河野義夫理事長に就任
- 62年 3月 国並びに広島市の補助を得て尾長町に総合移転実施
- 平成 1年 1月 創立百年記念式を行い、百年誌を刊行する
- 3年 4月 法人独自の事業として保育事業を開始する
また短期養育事業を拡大し、新たに夜間養育事業を実施する
- 9年 10月 保育センター(ベビーステーション風〜風〜の家)鉄骨2階建を開設
- 10年 2月 広島修道院保育センター(定員40名)(乳児保育所)として認可される
- 11年 2月 広島修道院保育センター定員60名0歳〜就学前までの保育所として認可、
平成12年4月定員70名となる
- 13年 4月 広島修道院保育センター定員75名
- 14年 6月 河野澄子(元広島乳児院長)理事長に就任
- 20年 5月 桐原秀雄理事長に就任
- 21年 1月 創立120周年記念式典を行い、記念誌を刊行する
- 21年 4月 広島修道院保育センターから、広島修道院保育園へ名称変更
- 22年 5月 藤賀卓理事長に就任
- 25年 6月 乳幼児ホーム新館開所
- 26年 4月 児童養護施設広島修道院きずなの家新設
- 28年 4月 広島修道院保育園定員85名
- 30年 6月 中島充人理事長に就任